

鈴木町長が初登庁

先の町長選挙で初当選を果たした、鈴木慎也町長が4月27日に多くの支持者や町職員に見守られるなか初登庁した。花束を渡されると選挙戦の疲れを感じさせない笑顔で支持者らに応じ、深々と頭を下げた。その後、役場内で全職員を前に、『私に課せられた課題として世代交代、まちづくりと重責を痛感し、身が引き締まる思いです。木古内町は少子高齢化が全国でも最悪レベルであり、課題が山積しています。まちの再生、発展、町民の幸せのため尽くします。町民、町職員、町議会議員と『オール木古内』でスクラムを組み対応していきたい』と挨拶した。



町長就任挨拶

私は、町民の皆さまの温かいご支援助とご期待をいただき、第8代木古内町長に就任させていただきました。有権者の皆さま全ての票の重みを全身で感じております。木古内を再生、発展させる世代交代のバトンを歴代7人の町長から引き継ぎさせて頂いたその重責に身が引き締まる思いです。今、町に求められているものは、建設的な議論を行うことです。問題を先延ばしすることなく『現在と未来を守る為に挑戦する町政』を目指すことであります。その為には、町民の皆さま、町議会議員の皆さま、町職員、全ての力を結集しスクラムを組み、早い時代の流れに柔軟に対応しながら勇氣と信念を持って活動致します。活力溢れる木古内町の未来を実現するために町が抱える課題に向き合い徹底した町民目線で一つひとつ親切に丁寧に向き合っていくことをもち解決し『カタチ』にしていきたいです。私が町長として取り組むことは、大きく分けて次の3点を大切に考えております。1『過去』先人に感謝し伝承すること 2『現在』今を共に歩み守ること 3『未来』挑戦し創造すること この3点が揃った『世代交代』であり『持続可能なまちづくり』であると考えております。一点目に『過去』先人に感謝し伝承することです。

先人から受け継いできた木古内の豊かな自然や、歴史、文化、伝統など当町の特色を更に活かした観光政策を展開するとともに、インバウンド観光を推進し観光を楽しんでいただけるよう取り組んでまいります。若い世代の参画を積極的に受け入れ豊かな発想力のもと収益事業の展開を図るため、官民連携して進めてまいります。サラキ岬のチューリップフェアや寒中みそぎフェスティバルなど木古内の四季の移り変わりを感ずるイベントについて関係者各位のご尽力を賜りながら町として支援を強化し、共に歩んでまいります。また、旧中学校や旧恵心園などの企業の遺産として次世代に残すことのないように進めてまいります。行政運営では、人事評価制度の効果的な活用、職員定員管理計画の変更に取り組み、適材適所の人員配置を目指します。町職員一人ひとりが個性を活かし、やりがいをもって、自分らしく輝いて仕事ができる環境を整えてまいります。二点目は『現在』今を共に歩み守ることで『安心・安全なまち』を継続し守ることが重要です。町の人口は二十年前で40%減り約四千人です。高齢化率は二十年前は25%でしたが現在では、約50%になるうとしています。急激なスピードで進む少子高齢化の歯止めが急務であります。高齢者福祉では、い

つまでも健康で元気に生活することができ、また買い物や病院への外出も今まで以上に気軽にできるような交通環境の充実を推進いたします。介護を要する方の施設を増加させることではなく、いつまでも住み慣れた家や地域で安心して暮らせる環境づくりが重要であると考えます。介護福祉では、高齢者の日常生活圏ニーズ調査の分析、研究を進め親切・丁寧を心掛け更に充実した介護保険事業計画を目指します。障がい者福祉では、細かいニーズに対応できる体制を整え地元で就労できるように進めてまいります。病院事業では、国保病院の存続の為に全力で取り組むとともに、安定経営のうえ地域医療の継続体制の構築に努めます。子育て教育では、子どもが安心・安全に通学するための防犯カメラやパトロールなど地域全体で子ども達をまもる政策に取り組んでまいるとともに、冬季や雨天時に子ども達が集える施設の充実や認定こども園の整備も進めてまいります。さらに、GIGAスクール構想では、小中学校にWiFi環境を整備し、タブレット端末の整備や小中学校の設備の改修、雨漏りの修繕等は、計画を前倒ししてでも教育環境の改善に取り組めます。防災では、より安心安全な避難態勢を確立するため自主防災組織の結成を目指すとともに地域防災の強化を進め